

## 《県営かんがい排水事業》

# 読谷村宇座地区

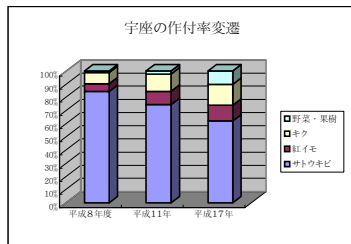
### 地区の概要

本地区は、先の大戦中に米軍により、「ボーローポイント飛行場」が構築され、戦後も引き続き米軍基地として使用され、昭和51年9月に返還され、土地改良総合整備事業（昭和58年度～平成4年度）で、ほ場整備された地区である。

#### ■ 位置図



長浜ダム受益地全景



作物	平成8年度	平成11年	平成17年
サトウキビ	37.6	33.6	27.2
紅イモ	2.6	4.5	5.3
キュウ	3.8	5.9	6.9
野菜・果樹	0.5	1.0	4.4
計	44.5	45.0	43.8

### 事業概要

- 1) 受益面積 50.7ha
- 2) 受益者 242人
- 3) 主要工事 幹線管路2,036m、支線管路4,963m、スプリンクラー402個、給水栓31箇所、給水所1箇所
- 4) 総事業費 5億1,800万円
- 5) 工期 平成6～11年度
- 6) 関連事業 県営かんがい排水事業長浜地区(280ha) 土地改良総合整備事業浜屋地区(13.9ha) 土地改良総合整備事業宇座地区(25.4ha)

### 土地改良事業のあゆみ

読谷村は、村づくりの柱に農業を据え、農業立村を目差している。農業振興の基盤である農地の整備に積極的で、昭和51年からほ場整備事業を開始し計画的に整備を進めてきた。さらに平成7年度供用の長浜ダム（事業工期昭和54年～平成10年、有効貯水量143万t）を水源とする畑地かんがい施設整備事業にも平成5年度から着手し、平成17年度に全地区完了し、面積280haの優良農用地を確保している。宇座地区は、当地域の中核をなす地区である。

### 完成後のかん水施設



③末端の散水施設



②各地区への配水施設（ファームポンド）



①水源の長浜ダム

### 事業実施の効果

- ① 作付け面積の変化  
サトウキビが減少し、紅芋、キュウ、野菜・果樹が増加した。
- ② 施設園芸（キュウ、切花、パパイア、その他野菜）が大幅に増加した。
- ③ 労働時間及び機械経費  
作付体系がサトウキビからキュウへ、露地のキュウから施設のキュウに移した。また、さとうきびから紅芋に移行していると考えられる。具体的には、下記の生産農家の畑地かんがい事業に対する評価を参照。



平張ハウス内でのキュウ栽培

### 生産農家の畑地かんがい事業に対する評価



電照キュウ農家  
山内盛次さん

私が電照キュウ栽培を始めた頃は、独自で地下水調査をおこない、井戸を掘り、池に水をためて、ポンプで畑まで2kmも配管し、散水しました。配管やポンプは5年も経過すると、維持修繕に経費がかかりました。他の農家は排水路をせき止めて散水していました。ですから、品質的にも問題があり、栽培面積の拡大もできませんでした。わたしは、ダム完成まえは栽培面積は1haで完成後は水質、水圧が十分にあり散水方法も定流量自動弁の設置栽培面積も2haに広がり、作物の品質向上も実現しました。



紅イモ農家  
山内徳永さん

紅イモを植え付けるときは、長浜ダムが完成以前は、畑のうねたて作業の準備を行った後で、雨が降るのをまっていたのですが、完成後は一年を通して植え付けができるようになり、計画的に栽培ができます。農家も安定した収入も得られるようになりました。多くの農家は、「ユンタンザ」と栽培契約をおこなっています。また、ある農家は保育園等に「芋掘り体験」として栽培しています。また、読谷村の土壌は、収穫時においては土が硬くなり、掘り起こすときにイモが破損するおそれがあるので、軽く散水を行ってから収穫すると、商品価値の高いイモ（傷のないイモ）がとれます。

### 地区空中写真

